

平成十一年歌会始御製御歌及び詠進歌

青

御製

公害に耐へ来しもみの青葉茂りさやけき空にいよよのびゆく

皇后陛下御歌

雪原せつげんにはた氷上にきはまりし青年の力愛かなしかりけり

皇太子殿下

登山電車にゆられて登るユングフラウ青き氷河はせまりくるなり

皇太子妃殿下

摩文仁なる礎いしの丘に見はるかす空よりあをくなぎわたる海

文仁親王殿下

鶏追とりひて西双版纳シアンパンナの村歩む青空広がる雨季の晴れ間に

文仁親王妃紀子殿下

朝の池うすらにあをくとざしたる氷の面おもてすきて光れり

清子内親王殿下

まさをなる空に見えざる幾筋の道かよひみて渡り鳥くる

正仁親王殿下

山形の青一色の空の下赤きりんごをわれは手折りぬ

正仁親王妃華子殿下

青々と木ぶかき森に入りくればしまふくろふの眼ひかりぬ

宣仁親王妃喜久子殿下

はてしなく青く晴れたる大空にのぼる朝日に年は明けゆく

崇仁親王殿下

富士を背に青海原を泳ぎきり芋粥うまし三津の浜べに

崇仁親王妃百合子殿下

知床の岸に寄せたる流水の重なる奥に淡き青見ゆ

寛仁親王妃信子殿下

青空のしじまにひびく鳥の声たんぽぽは花おもたげに咲く

憲仁親王殿下

石垣島あをくしづけき水底をすべるがごとくマンタ泳ぎゆく

憲仁親王妃久子殿下

備瀬崎の海をあをよりなほ青くるりすずめだひ群れておよげり

青空の星を究むとマウナケア動き初めにしすばる称へむ
召人 藤田良雄

ゆるぎなきものの裂傷湖青き氷の裂ける音遠きかな
選者 武川忠一

みづうみは青ひとすぢの葦牙を立てて一途の春となりゆく
選者 安永露子

青うなばら潮干からして母をよぶわがすさのをぞ恋ひしかりける
選者 岡野弘彦

大麦は愛のごとくに熟れながらボヘミアの野の青き起き伏し
選者 岡井隆

秋の日の青海原を見しのみ心ゆたけく市井にかへる
選者 島田修二

選歌 (詠進者生年月日順)

思ふこと若かりし日にかかはりて青く香にたつ薄荷の葉叢
三重県 柴原恵美

唐国に還らむとてか真青なる山繭は大き羽根ひらきたり
徳島県 大柴麻子

己が持つ青き光の輪に乗りて螢は掌より闇に飛びたり
山口県 大場淑子

駅七つ呑込まれたる豪雪の除雪開始の青旗を振る
福島県 斎藤弘

空と海青き彼方は大夕焼四十四年の我が最終航
島根県 渡部義英

愛知県 伊藤正彦

昨夜^{よべ}生^あれてはや青草を踏む仔牛身のどこかいつも母にふれあつ

兵庫県 清水英郎

わが眼にて最後に見たる「水」の文字青きインクの美しかりき

千葉県 山之内俊一

被爆せる樟青々と天に伸び半世紀経し夏を輝く

佐賀県 西川友子

夜勤明けの空の淡青^{たんあを}美しと介護実習の子の眼耀く

佐賀県 中尾裕彰

新しき羽を反らして息づける飛翔間近の青スジアゲハ

佳 作 (詠進者生年月日順)

愛知県 野々山正彦

尾鰭震ひ船板の上を滑りゆく鯉の縞の鮮やかに青き

神奈川県 石渡英雄

スクールカラー青と決まりて一期生の目は輝けり仮設校舎に

福島県 齋藤 温

みちのくは梅雨明けぬまま秋立ちぬ雲の間に間に青空の見ゆ

香川県 新川ツエ子

青空へ伸びゆくクレーンしつかりと太き棟木を掴んで居りぬ

北海道 服部十郎

この青い輝点はサハリンこれは船レーダー見据ゑて漁場へ急ぐ

神奈川県 松本房子

信号は変はりぬ手をひく幼子は「青」と声あげ一步を踏み出す

京都府 五十嵐弘治

鳴滝の合せ砥を得したかぶりに鉋の刃先青あをと研ぐ

福岡県 藤本暘子

パーキンソン病にふるへる手もて妹は青き帽子を目深にかぶる

神奈川県 松角常子

うす青き闇なしてゐむ安曇野に遇ひし天蚕の小さき繭は

東京都 浅井絃子

ニコライ堂の鐘七月の青空に高く鳴りたり母となりし日

静岡県 掛井広通

病室のまだ打ち解けぬ少年に青年医師は草笛を吹く

神奈川県 山本陽子

ワープロの手をとめ見遣る空の青ひろがりつらむ保育所わたりも

滋賀県 大野象多

澄みわたる青空背にしひとすぢの矢となれ翔び立てクリティカルポイント

奈良県 藤井秀樹

人生の押し寄せてくる青波が僕の心を飲み込んでいく